

消石灰、正しくまいて農場を守ろう

★鳥インフルエンザや豚熱など家畜の伝染病発生予防に使う『消石灰』は、散布の方法を意識することで、高い効果を期待できます。

1 効果のメカニズム

消石灰が土壌中の水分と反応して強アルカリに変化し、病原微生物が生息できない環境となることで消毒力を発揮します。

※注意すべきこと

消石灰が大気中や雨水の二酸化炭素と結合することで、炭酸カルシウムになり、効果がなくなります。(消毒効果は約2週間程度)

なお、消毒効果の劣化の判断は見た目では出来ません。

2 効果が期待できる病原体

細菌やウイルスなど幅広い病原体に効果を発揮します。

また、糞便中の水分にも反応して強アルカリとなるため、野鳥の糞などにも有効です。

3 消石灰の散布方法 ～消毒効果を維持するために～

①散布の目安は… $0.5\sim 1.0\text{kg}/\text{m}^2$ (効果は2週間程度)

②地面が均一に白くなるように散布する (ムラがないように)

③コンクリートやアスファルトなどの乾燥した地面では、消石灰1袋(20kg)に対し、3～4割の水をジョウロ等で散水することで、より高い効果を期待できます。(地面が土の場合は、散水は必ずしも必要ではありません)



※広島県ホームページで消石灰散布動画を公開しています。参考にしてください。

🔍飼養衛生 動画でぜひ検索してみてください。



出典：令和3年4月9日室蘭工業大学プレスリリース「家畜伝染病防疫のための効果的な消石灰の利用」
平成23年10月1日発行農林水産大臣公表「口蹄疫病に関する特定家畜伝染病防疫指針」より

広島県〇〇畜産事務所

〒

☎

FAX